

学校運営協議会議事録

| | |
|-----|---------|
| 校名 | 府立東高等学校 |
| 校長名 | 塩見 暢朗 |

| | |
|---------|--|
| 開催日時 | 令和 7年 2月 7日(金)15:30～ 17:00 |
| 開催場所 | 大阪府立東高等学校 会議室 |
| 出席者(委員) | 森 久佳 会長 新木貴雄 副会長 |
| | 江越 航 委員 木村知史 委員 片山政利 委員 向井 秀俊 委員 |
| 出席者(学校) | 塩見校長 田中教頭 森川首席 今村首席 松岡実習教員 |
| 傍聴者 | なし |
| 協議資料 | 令和6年度学校経営計画及び学校評価(最終評価案) 令和7年度学校経営計画及び学校評価(案) |
| 備考 | |

| | |
|---|--|
| 議題等(次第順) | |
| 令和6年度学校経営計画及び学校評価(最終評価案) 令和7年度学校経営計画及び学校評価(案) | |
| 協議内容・承認事項等(意見の概要) | |
| <p>①令和6年度学校経営計画及び学校評価(最終評価)について、協議の結果全委員から承認された。</p> <p>②令和7年度学校経営計画について、協議の結果全委員から承認された。</p> <p>協議において、次のような意見が出された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断のアンケートに情報リテラシーに関する設問が必要ではないか。 ・学校教育自己診断「探究活動を通じて、主体的に学ぶ態度、論理的思考力が身についた」の数値が、生徒と教職員で乖離している。この乖離を埋める必要がある。 <p>⇒先生については、これまでの積み重ねにおいて、探究活動指導も含めた知見が蓄積され、実践の中で手ごたえを感じていると解釈できる。それが効果として生徒に現れるのはタイムラグがあるのかもしれない。推移を見守って行く必要がある。</p> <p>⇒2年普通科の総合的な探究の時間における取組も活性化しつつある。数値は今後向上すると考える。生徒自身が自己評価に関して控えめなところもある。</p> <p>⇒生徒自身が関係性に気づいていないことがある。関係性を伝え、理解させる必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒にとって主体的に学ぶというのがどういうことなのかという理解・認識を得る必要があるのではないか。態度と思考力を分けて質問してはどうか。 ・南海トラフ地震が発生した際の津波被害について、必ず遭遇するものと想定して準備が必要ではないか。 <p>⇒本校の防災計画については区役所に送付済み。府への移管時において確認された避難所設置計画より、本部という扱いではなく、1避難所の扱いである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断「基本的な生活習慣やマナーが身についた」の数値が、生徒と教職員で乖離しており、教職員は年々下降している。背景は何か。 <p>⇒学校教育自己診断によると、子どもが非常に学校を安心して、笑顔で来れているというのは学校にとってうれしいことである。ここで例えば遅刻何回したらペナルティーと厳しく指導すれば、遅刻は減るかもしれないが、この数値も一緒に減るかもしれない。世の中のバランス考えながら、学校も求められるものが変わってきていると感じる。</p> <p>⇒必ずしも低いから注意すべきとは限らないのではないか。先生が指導しなくても十分できているということもあるのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断「自学自習や家庭学習の習慣が身についた」の数値が低い。私立高校は土曜授業や放課後に塾による講習を行っている。対応が必要である。 <p>⇒何をもちて自学自習と言うのか、保護者・教職員目線と生徒目線が異なる可能性がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導対象となる遅刻のとらえ方およびアプローチの転換について。 <p>⇒遅刻が重なってきたら行う罰則的な指導に代わり、対話を通じて原因究明するアプローチへと転換する。</p> | |
| 次回の会議日程 | |

| | |
|----|---------------|
| 日時 | 令和 7年 4月 |
| 会場 | 大阪府立東高等学校 会議室 |